

6. 生活・医療・家庭・身上相談

センターには、地域の労働者から日々の生活にかかわる様々な相談が持ち込まれる。それは身上相談、宿舍の提供、たずね人等々である。

相談の内容は主として次のようなものである。

- 仕事にアブレ、アビレ手当（雇用保険給付金）の受給資格もなく、食費と宿泊費に困っている。
- 朝から体調が悪く、仕事に行けなかった、明日働いて返すからドヤ代を貸してほしい。
- 労災事故、賃金不払の相談に来たが問題が解決せず、今日のドヤ代もない。
- 身体が弱く、自分に適した仕事がなくアブレが続き、生活に困っている。
- シノギヤ（西成の辻強盗）にやられ、食費やドヤ代もない。
- 身障者手帳の交付を受けたい。
- 健康保険の傷病手当を申請中だが支給日までの生活費がない。
- 家に電話し送金してもらいたいと思うが電話代がない。
- 飯場に行く電車賃がない（働きに行く場合と賃金をとりに行く場合）。
- 入院が必要と言われたが一銭もない。
- 妻の出産の費用がない。
- 病院で就労不能と診断されたが、自己退院や強制退院の前歴があり、民生の窓口で受けつけてくれない。なんとかしてほしい。
- 行政の窓口で住民票、戸籍抄本の提出を求められたが、住民票の所在が不明である。なんとか取り寄せてほしい。
- 交通事故にあい、給与証明の提出を求められている。
- 雇用保険、健康保険の印紙をはってくるよう行政の窓口で言われたが事業所がはってくれない。
- 各種免許証の紛失による再交付の相談。
- 各種年金等の相談。

等々自分で解決できないすべての事柄を携えて来所し、センターは「よろず相談所」の様相を呈している。相談内容は職員が知っている事を教えるだけで済む、簡単なものから、関係機関に問い合わせた上で適切な助言指導を必要とするもの、本人に代って代書や手続きの代行を行う必要のあるもの等いろいろあるが上記の例で見られるように生活費等、金銭のともなう相談ごとが多い。

その日のうちに解決出来ないような相談ごとは、相談処理記録表を作成し、引き続き処理にあたっているが、相談記録表による相談の内容、状況は別表のとおりである。

雇用保険、健康保険の加入手続きに関し、住民票や戸籍抄本の取り寄せ及び住民登録のための転出証明の取り寄せが増加しているが、これは53年度以来の傾向である。労働者のなかには10年、20年もの間、住民としての権利、義務を放棄していたため、住民登録が抹消されていたり、なかには、戸籍さえ抹消されていた例もある。

年 月 別	分 類	就 労	健 保	医 療	住 民 票	交 通 事 故	そ の 他	計
54年	4月	3	3	0	13	1	3	23
	5月	2	4	3	11	2	3	25
	6月	1	3	3	8	1	4	20
	7月	1	1	1	5	0	5	13
	8月	2	1	1	7	0	3	14
	9月	2	2	2	6	0	6	18
	10月	1	2	1	7	1	5	17
	11月	6	5	2	5	0	1	19
	12月	2	0	1	12	1	2	18
55年	1月	3	2	3	11	1	2	22
	2月	5	4	0	7	0	2	18
	3月	2	2	2	12	0	1	19
	計	30	29	19	104	7	37	226
分 類 の 内 訳	1) 就 労……雇用保険(印紙、就労申告書) 2) 健 保……健康保険(印紙、傷手申請) 3) 医 療……病気のための諸相談、健保事務を除く 4) 住民票……転出、(異動証明書、戸籍の附票を含む) 5) その他……以上に該当しないもの							

(1) 短期宿泊紹介と生活援助

短期宿泊紹介は、その日の宿や食事に困窮した労働者を対象に、一泊二食を原則として、社会福祉法人大阪自彊館に宿泊と食事の提供を依頼している。今年度の利用者は別表の通りであるが、限られた予算内での執行であるため、希望者全員に措置できないのはもちろんのことで、常連の利用は全て断る。雇用保険手帳を点検して就労の状況、雇用保険給付の状況等を見て判断する。初めての利用者を優先する。等厳しいチェックの上で措置している。又、僅かな金銭的援助で、明日の労働力を培える場合には、交通費、連絡費、あるいは食事代、宿泊費の一部を貸与することとしている。

昭和54年度自彊館紹介状況

	相談 受付数	紹介 人員	実宿泊 人員	延宿泊 回数	食 事			
					朝	昼	夕	計
54年 4月	102	36	36	36	36	0	36	72
5月	104	35	35	36	36	3	36	75
6月	147	61	58	59	59	6	59	124
7月	141	37	35	36	36	2	36	74
8月	119	35	27	27	27	1	29	57
9月	97	28	27	29	29	3	29	61
10月	72	28	25	26	26	2	12	40
11月	89	29	28	30	30	1	3	34
12月	96	28	27	27	27	0	14	41
55年 1月	99	35	34	34	34	0	28	62
2月	107	22	20	22	22	3	19	44
3月	83	23	22	23	23	1	22	46
合 計	1,256	397	374	385	385	22	323	730
前年度計	1,315	515	489	510	510	49	509	1,692
対 比	-59	-118	-115	-125	-125	-27	-186	-962

(2) 病床見舞金品の給付

あいりん地区労働者のうち、負傷、疾病等により、1ヶ月以上の入院加療を要し、原則として、社会補障制度の適用を受ける事がなく、援助を要する者については、1名あたり2千円を限度とする金品を支給している。

54年度の支給状況は、別表のとおりであるが、物品の支給希望者が極端に増加する傾向が見られる。

	見舞金	見舞品	小計
54年 4月	0	3	3
5月	0	12	12
6月	0	16	16
7月	1	4	4
8月	0	6	6
9月	0	6	6
10月	0	7	7
11月	1	2	3
12月	0	12	12
55年 1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	1	3	4
合計	3	71	74
昨年実績	10	42	52
対比	-7	+29	+22

54年度 疾病給付、支給品別内訳（月別、品物別）

	ズボン	タオル	石けん	シャツ	作業衣	パンツ	サンダル	セット	ちり紙	小計
4月	—	1	—	—	—	—	2	—	—	3
5月	1	2	—	3	—	1	1	3	1	12
6月	2	2	1	3	—	4	3	1	—	16
7月	—	2	—	1	—	—	—	1	—	4
8月	—	3	2	—	—	—	1	—	—	6
9月	2	1	1	1	—	1	—	—	—	6
10月	1	2	—	2	—	1	—	1	—	7
11月	—	1	—	—	—	—	1	—	—	2
12月	—	6	2	1	—	2	—	—	1	12
1月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
2月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
3月	—	1	1	—	—	—	—	1	—	3
合計	6	21	7	11	0	9	8	7	2	71

(3) たずね人の相談

今年度のたずね人相談の統計表上の特徴的なことは、受付件数の減少である。

(28件の減少)

依頼者(表Ⅱ)、出身地(表Ⅱ)等については、比率上はほとんど変化が見られなかったが、細部を点検してみると註目に価する事実がいくつか挙げる事ができる。

1点は、解決した相談件数25件の依頼先は全てが家庭、肉親からの依頼である事。

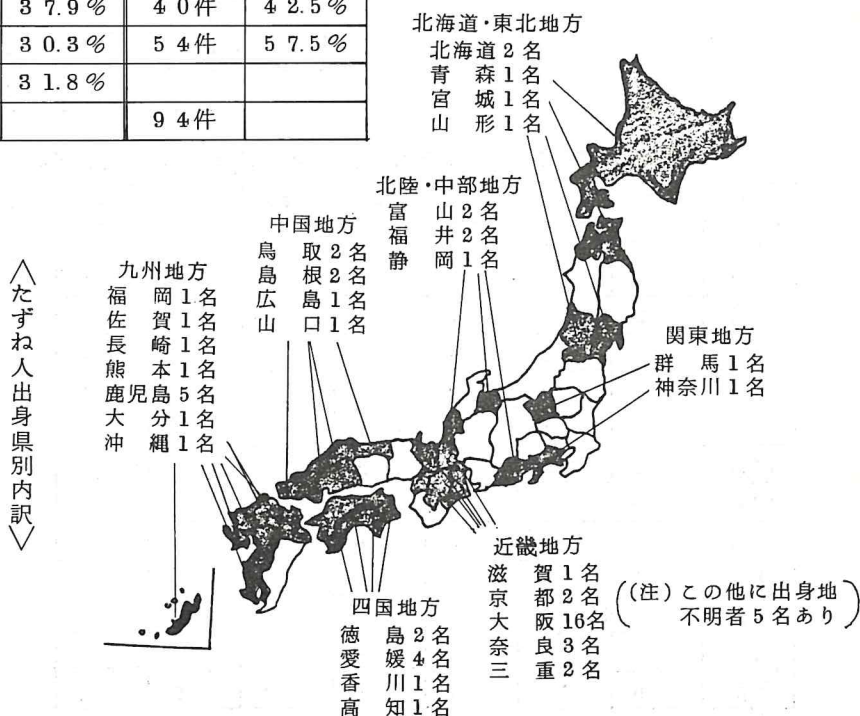
2点には、出身地内訳のうち最も多くの16件を含めている大阪出身者の解決件数が僅か1件しかなかったという事である。

たずね人依頼先 表Ⅱ

	54年度件数	54年度比率	53年度件数	53年度比率
家族・肉親	49件	74.2%	68件	70.6%
友人・知人	8件	12.1%	8件	8.4%
事業主・その他	9件	13.6%	18件	21.0%

処理内容 表Ⅰ

	54年度件数	54年度比率	53年度件数	53年度比率
解決	25件	37.9%	40件	42.5%
中断	20件	30.3%	54件	57.5%
経続	21件	31.8%		
合計	66件		94件	



(4) 来信物取扱い・電話貸付

来信物の取次ぎは、簡易宿泊所に起居し、短期間で居所を移している当地区の特徴故に家族、知人との音信が途絶えがちな労働者から「センターを手紙の着信場所に貸して欲しい。」といった要請が自然発生的にあり、それにセンターが応える。といった形で定着化してきた。54年度には、年間1,414件の来信物が労働者の手に渡り、それぞれ一喜一憂の表情が窓口で見られた。

また、相談の過程に於いて緊急を要する事項については料金を返済する事を前提に、電話を貸付する事もあり、利用頻度は別表の通りである。表を見ると6月、8月、7月の順に貸付け数が多いが、6月の梅雨によるアブレや盛夏に於ける体の不調が原因であろうと思われる。

来信物（受信）取扱状況

昭和54年度

月別	種類	ハガキ	封書	書留	現金書留	電信為替	電報	小包	その他	計
54年	4月	22	76	6	16	8	0	1	0	129
	5月	36	75	5	13	9	0	1	0	139
	6月	29	61	0	12	14	0	0	0	116
	7月	50	41	0	5	8	0	0	0	104
	8月	24	63	0	12	16	0	2	1	118
	9月	25	51	1	11	14	1	0	0	103
	10月	41	57	0	4	13	0	1	0	116
	11月	28	48	3	8	18	1	1	0	107
	12月	29	62	2	15	17	1	1	0	127
55年	1月	52	75	4	4	7	0	1	0	143
	2月	22	53	0	13	10	0	3	0	101
	3月	22	62	8	4	12	0	3	0	111
	計	380	724	29	117	146	3	14	1	1,414
	比率	26.9%	51.2%	2.0%	8.3%	10.3%	0.2%	1.0%	0.1%	100%

昭和54年度電話貸付 地域・月別表

地方	都道府県名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	小計
北海道東北	北海道			1		3				1				5
	秋田					2								2
	宮城				1									1
関東	茨城		1	2		1			2					6
	群馬	2												2
	千葉				2	1	1		1		1			6
	東京		1		1				1	5	1			9
中部・北陸	神奈川					1		1			1	1		4
	新潟						1	1						2
	富山	1		3						1				5
	石川													4
近畿	愛知		2	1					1					4
	滋賀					3								3
	奈良				1	1						1		3
中国	兵庫				2		1							3
	鳥取	1												1
	島根		1							1				2
	広島	1		2		2								5
	岡山	1		1						1	1	1	1	6
四国	山口	1					1							2
	香川										2			2
	愛媛		1					1	1					3
	徳島									1				1
九州	高知			3			1							4
	福岡	1			1		2	1	3	1	1		3	13
	佐賀	1										1		2
	長崎		1		2		1			1				5
	大分		2				1			1				4
	宮崎			1	1		3					1		6
	熊本			1		2					1		1	5
鹿児島			4	5	1						1		11	
	合計	8	11	20	16	17	12	4	9	15	8	6	5	131

貸付内容	件数	比率
・家族に送金依頼	65	49%
・家との連絡		
肉親の安否	15	20.5%
{ 家族について	8	
その他	4	
・各種証明の依頼	11	8.4%
・事業所との連絡	4	3.0%
・知人との連絡	6	4.5%
・その他	19	14.5%

(5) 医療相談

労働者が負傷した時、医師の手に委ねるほどの必要がないと思われる軽度の外傷に対して通常家庭内で行われる程度の措置を施したり、また、胃腸に不振を訴える者に家庭薬の供与をしているものである。

なお、健康保険の受給資格のない労働者で、医師の診察を受ける必要のある者に対し、大阪社会医療センターへの診療依頼券を発行し、医師の診察を受けるよう指導している。

センター詰所、事務所周辺での急病人や、事故、暴力等による外傷の際、救急車、パトカーを要請したものは、別表のとおりである。

昭和54年度 医療相談取

	外 傷 手 当						家 庭	
	早 朝		一 般		小 計		早 朝	
	54年度	53年度	54年度	53年度	54年度	53年度	54年度	53年度
4月	33	42	192	191	225	233	9,753	9,773
5月	27	36	176	243	203	279	10,134	10,251
6月	45	46	262	253	307	299	9,473	9,577
7月	70	34	303	296	373	330	11,128	10,512
8月	69	56	277	294	346	350	10,327	10,583
9月	70	65	254	258	324	323	10,417	10,303
10月	30	32	189	230	219	262	10,560	9,888
11月	45	43	214	249	259	292	8,982	9,245
12月	47	40	156	256	203	296	9,154	8,368
1月	22	21	166	200	188	221	6,771	6,880
2月	30	46	179	224	209	270	7,469	8,133
3月	30	41	150	171	180	212	9,391	10,099
計	518	502	2,518	2,865	3,036	3,367	113,559	113,612
対比	+16		-347		-331		-53	

※ 家庭薬供与とは胃腸に不振を訴える者へ家庭薬を与えているもの。

扱状況（前年度比較）

薬 供 与 ※				医療紹介		救急車・パトカー		合 計	
一 般		小 計							
54年度	53年度	54年度	53年度	54年度	53年度	54年度	53年度	54年度	53年度
641	406	10,394	10,179	553	534	3	1	11,175	10,947
817	652	10,951	10,903	583	519	1	4	11,738	11,705
859	537	10,332	10,114	617	619	1	5	11,257	11,037
800	639	11,928	11,151	602	658	4	4	12,907	12,143
1,010	711	11,337	11,294	536	552	4	3	12,223	12,199
820	727	11,237	11,030	543	524	4	0	12,108	11,877
879	717	11,439	10,605	521	569	2	1	12,181	11,437
968	749	9,950	9,994	465	522	0	2	10,674	10,810
922	747	10,076	9,115	510	558	5	5	10,794	9,974
1,102	853	7,873	7,733	529	553	1	4	8,591	8,511
1,127	784	8,596	8,917	543	479	2	0	9,350	9,666
1,093	616	10,484	10,715	533	560	2	3	11,199	11,490
11,038	8,138	124,597	121,750	6,535	6,647	29	32	134,197	131,796
+2,900		+2,847		-112		-3		+2,401	

7. 日雇健康保険（参考資料）

センターでは、地区労働者の福祉の向上という主旨から、昭和39年9月から日雇健保の取次ぎ業務を行ってきた。

昭和45年頃までは、加入労働者は非常に少なかったが、あいりん労働公共職業安定所の開設、雇用保険の加入拡大とともに、大阪府民生部、玉出社会保険事務所、西成労働福祉センターのPRとあいまって日雇健保の加入も増加してきた。昭和50年には、法律の改正による傷病保険金の給付額のアップ、給付期間の延長等により、それ以降、加入労働者は年々増加してきている。現在、日雇健保手帳所有労働者数は約1万6千人に達している。

その取扱い状況は別表の通りである。

別 表 日雇健康保険取扱状況

項 目 年 度	被 保 険 者 手 帳				受 給 資 格 者 票				受 給 資 格 確 認	傷 病 手 当 金 給 付	
	新規	更新	再交付	計	新規	更新	再交付	計		件数	金 額
昭和 50年	6,336	6,061	3,432	15,829	5,042	4,383	2,495	11,920	34,276	30,668	1,221,277,440
51年	4,325	8,302	3,711	16,338	3,872	6,498	2,898	13,268	37,361	49,481	2,373,301,838
52年	2,633	8,557	3,124	14,314	1,829	7,197	2,672	11,698	45,312	10,664	588,570,808
53年	2,176	8,508	2,872	13,556	1,044	7,352	2,355	10,751	47,932	6,043	311,777,940
54年	2,013	8,925	2,660	13,598	1,041	7,942	2,276	11,259	53,281	7,581	393,812,051

8. 「センターだより」の発行

昭和53年1月からセンター広報紙「センターだより」を発行している。記載内容は別載のように地区労働者を対象としたもので、毎月2,000部を発行し、配付は早朝紹介時の中央詰所窓口、センター事務所の各窓口置き、労働者が自由に持って行けるようにしている。発行から2年を経過し労働者の間に定着している。



事業所を訪ねて!

1人でもと定着を望む地方業者



万博景気を上回る求人により、活気をあびる餅り場。業者としても、真剣に取り組まれているようです。その中で、遠隔地求人増加が目立ってきています。N建設の場合、従来の、数軒来、遠隔地求人は、トランプを多く発生させていたこともあり、今回、センター紹介(見込み)の事業所を訪ねる機会があり、この事業所の一端を紹介いたします。

訪問した愛知県N建設やS組の話によると、「公共事業の追い込みやゼメントや建設資材の値上りによる工事の早期実施などにより、地方の事業所は、どこでも未入籍となっている。」



〈三河湾を望む現場〉

又、定着のための努力が、自愛が高し、ほとんど契約いっぱいといつとめてくれます。定着を進んでいる。と、センターへの期待を語ってくれました。

三河湾を望む現場は、活気があふれていました。忙しそうに話しかかってくる。S.H. (記者)

「息口からの紹介を受けている。」という事でした。N建設の社長は、センターから紹介を受けた人は、自腹の旅費を来たのか、職人さんとしての

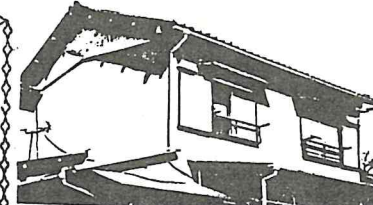
すでに4人が定着しており、当初からの紹介者であったYさんは、現在、現場の、事業を盛り上げていく現場業者です。



〈エントランスの受付〉

お知らせ
このたびは福祉保健課事務所が下記のとおり移転することになりました。
記
1. 新所在地 〒559
大阪市住之江区北加賀屋
2丁目3番6号
地下鉄北加賀屋下車徒歩約1分
2. 移転年月日 昭和55年3月17日(月)
3. ☎ 682-3311 (代表)

求職者の皆さんへお知らせ
センターでは、従来より専任雇用の公開求人による職歴紹介を9時より3時の紹介窓口で行なっています。最近この期間専任求人が増えています。比較的よい条件の仕事もありますので、皆さんの積極的応募をお待ちしております。



〈一人一室のアパート〉

この日は



今日はこの日、あいらびのセンターの工事、さしたる人に話さなければいけません。

このセンターのビル建てた時、工事されたものですね。



どうや、5階以上の住宅部分の外装・内装の仕上げをマりました。何年位前のことですか。石博の年やったから。10年位前やったですなあ。当時の賃金はどれくらいでしたか。



はつきり覚えてないけど6〜7千円位やったです。一級工の人です。乙千円位やったんかいますか。しやけど、左官の工事ってこういうのはね、

このセンター建設に手を貸した人は他から来た人はっかりなんぞ、ここにはないと思えます。ただ、私がこの金ヶ崎知ったんは、この仕事をさしてからなんです。

それ以来、ずっとここにいますので。▼当時と何か、かわった点はありますか。▼当時、一緒に働いていた人は、今でもいますか。

しやから、前よりは、安心して仕事をささすわ。以前は、仕事をさすのにも不安でしたわ。それと、私の個人的なことですけれど、ここにおったら気楽ですわ。母月の生活は、しんどいですけれど。▼これからは健康に注意して頑張ってください。

仲良し

NO.12

K.M. 左官



とら



白ゆり
うつろい光るペンタント
かたりをい
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

白ゆり
かたりをい
かたりをい

たすね人

次の方は、福祉課までおこし下さい

- 竹本 勝岩 沖繩県 宮下 孝文 (会本部)
 - 真柄 英司 京都市 高城 圭吾 神楽川
 - 岡田 忍 (同波郎) 小柳 亨 (佐賀県)
 - 松尾 昭之 新潟県 武 正三郎 (佐賀県)
 - 高橋 一夫 宮崎県 松本 野矢 昭彦 (佐賀県)
 - 岡村 義一 福岡県 横田 幸三 福岡県
 - 岩尾 資之 甲斐県 林 孝三 佐賀県
 - 前田 俊治 徳島県 阿部 信教 佐賀県
 - 山本 義徳 佐賀県 森本 正吉 佐賀県
 - 山本 権信 佐賀県 青木 茂隆 佐賀県
 - 石井 敏夫 41
- (去年5月に渡田工業で働いていた)
- 中村 誠 新潟県 中野 誠 新潟県

おくら

次の方は、防衛課までおこし下さい

- 猪瀬 良明 林 正美 安井 栄一
- 本田 房典 山本 良一 松本 幸二
- 森本 範明 松本 寛美 宮川 勇
- 追田 敏弘 伊藤 昭若 中神 一夫
- 羽田 義明 大屋 健治 白塚 義
- 丸田 富吉 村上 政宏 水沢 義
- 田中 慎 北口 正夫 野塚 義
- 舟橋 登 池川 慎二 大谷 美郎
- 寺田 勝二 藤川 昌昭 水谷 孝一
- 泉 高
- 北川 文治
- 田中 昌敏
- 前田 昭正



(非 売)

発行所 大阪市西成区萩之茶屋1丁目3番44号

財団法人 西成労働福祉センター

電話 641-0131(代)